

手作りの手間隙のかかるものは、能率が悪いがゆえに売り上げにはさほど貢献しないなどの理由から敬遠される。看板商品は別として、お客様は品揃えの変化に敏感である。特に行事で扱う商品に関しては、ギフトとしての付加価値を求めるため、食べて美味しいのは当然のこととして、女性たちは特

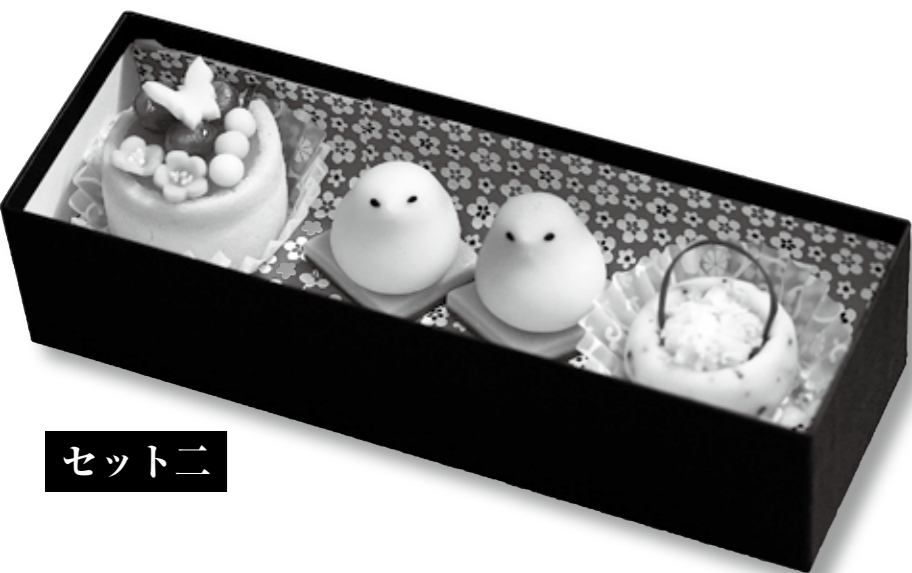
に美しいもの、カワイイもの、お洒落なものに目が吸い込まれていく。ここでは、お洒落でカワイイ、藤原さんの作品と、おもしろカワイイ、星さんの作品を組み合わせてみた。個性の異なるお菓子の相乗効果によって魅力増の桃の節句のギフトになっている。

セットものの提案 (藤原+星)

セット一



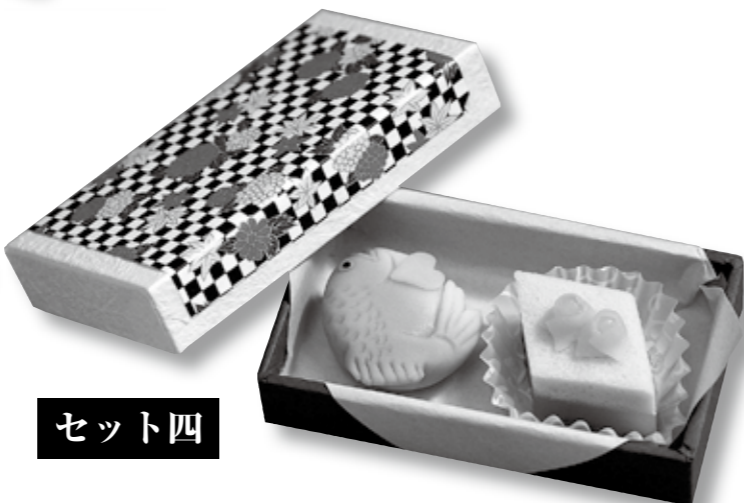
セット二



セット三



セット四



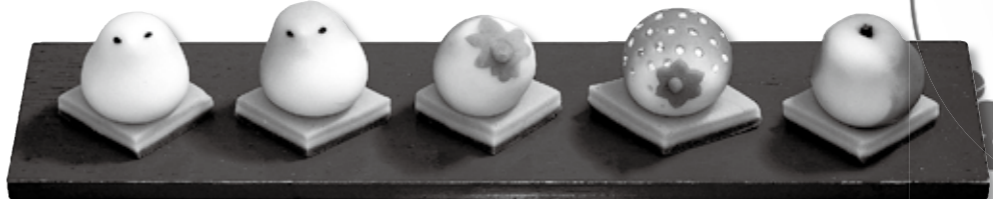
『おさらい雛祭り』でも触れたが、男雛が向かって左、女雛が右というのは関東式。この一対だけでも食べるのがもったいないくらいカワイイ。内裏雛と並ぶ桃が巨大に見えるがそれはご愛嬌。その桃には、舞い飛ぶ蝶があしらってあり、なかなかお洒落！

〈内裏雛と桃〉



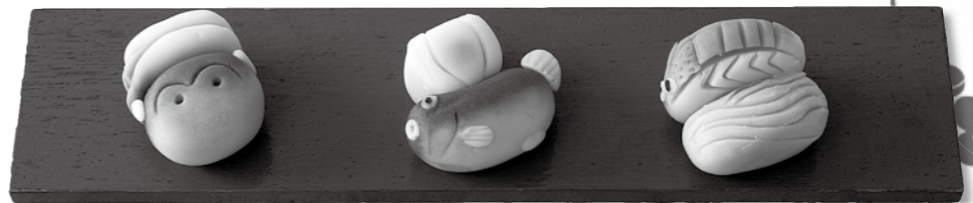
左から、黄色と白色のボカシでひよこの男雛、その隣が紅白のボカシでひよこの女雛を成形したもの。続いて茄子、苺、ラフランス。菱餅に見立てた煉切にのせるだけで、雛菓子として愛らしく見えるのがすごい。菱餅に託した願い、伝統の意匠の強みである。

〈菱餅尽くし編〉



左から、バナナとサル：バナナを頭にしたサルは、バナナが好きでサル、バナナを踏んで転ぶサルからイメージしたもの。雪洞をのせたフグ、波に乗るエビ…これが星ワールド？

〈番外編(1)〉



左が都鳥、右が鶏。どちらもハートをワンプointにしたもの。ハート使いの親鳥がいて、それに連なる雛たちが何羽かいたり、何個かの卵とのセットで雛菓子を創るのもひとつのアイデアかも知れない(卵の色はカラフルにする)。

〈番外編(2)〉

